

スナヤツメ (ヤツメウナギ科)



写真: スナヤツメのアンモシーテス幼生。

学名: *Lethenteron reissneri*

別名: ヤツメ, ウナギ

大きさ: 全長 20 cm

特徴: 尾びれの色は淡色で、形状は丸みをおびている。類似種のミツバヤツメやシベリアヤツメ、カワヤツメの尾びれは褐色ないし黒色で、形状も角ばっており、本種とはそこで見分けられる。体色は変異に富んでおり、識別には注意が必要。

国内の分布: 北海道・本州・四国と宮崎県・鹿児島県を除く九州

県内の分布: 県北地方の河川では比較的よくみかけるが、河川によっては目撃されなくなっている。久慈川水系や那珂川水系、利根川水系にも生息している可能性は高いが近年の記録がない。霞ヶ浦水系では 1950 年代に確認されている。

県内での生態: 県北地方の河川の下流域では、4 月頃に砂礫底で産卵行動を行っている姿がよくみられる。

備考: 県北地方の一部の河川には、かつては数多く生息していたが、ダム建設や河川改修などにより、近年はほとんど目撃されなくなっている。本種は茨城県版レッドデータブックでは希少種に選定されているほか、環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。また、本県からはカワヤツメの確認記録もあるが、個体群としてはスナヤツメより小さく、茨城県版レッドデータブックにおいて危急種に指定されるとともに環境省のレッドリストでも絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。

主な文献:

丹下 孚・加瀬林成夫 (1956) 霞ヶ浦北浦産魚類目録, 茨城県水産振興場調査研究報告, 昭和 28, 29 年度, pp. 45-46.

レイモン・アザディ (1983) 茨城の淡水魚. 筑波書林, 土浦. 95 pp.